



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語十勝方言における1人称と包括人称について
Author(s)	高橋, 靖以
Citation	北方言語研究, 5, 205-213
Issue Date	2015-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58358
Type	departmental bulletin paper
File Information	12Takahashi.pdf



アイヌ語十勝方言における 1 人称と包括人称について

高橋 靖 以

(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)

1. はじめに

アイヌ語の人称表示に関する研究において、1 人称と包括人称 (1+2 人称) の扱いは従来から議論の中心となってきた。本稿では、アイヌ語十勝方言における 1 人称と包括人称の用法に関し記述的な分析をおこなう。さらに、アイヌ語における人称代名詞と人称接辞の対応について、包括人称の用法の拡張という観点から考察を試みる¹。

アイヌ語十勝方言のデータは、北海道中川郡本別町に在住された沢井トメノ氏 (1906-2006) から調査によってえられたものである。以下では日常語の資料と散文で語られる口頭文芸テキストを分析の対象とした。

2. 先行研究について

2.1 アイヌ語の記述的研究における包括人称

以下では、アイヌ語の主な先行研究における包括人称の扱いについて検討する。アイヌ語沙流方言を分析した田村 (1956: 48) は、本稿における包括人称に相当する人称について「1-2 人称」という名称を用い、1 人称の下位カテゴリーとしては位置付けていない。しかしながら、その後、田村 (1988: 30-31) は包括人称について「不定人称」という名称を用い、その用法を以下のように整理している。

- i) 一般的にだれでもが行うことを表わす場合
- ii) 受け身文の行為の起点
- iii) 包括的 1 人称複数
- iv) 2 人称敬称「あなた様」
- v) 引用文中の 1 人称「私」「私たち」²

すなわち、田村 (1988) は「不定人称」の下位カテゴリーとして、「包括的 1 人称複数」を認める立場を取っている。なお、田村 (1988: 30) の「不定人称」に関しては「4 人称」という用語も用いられている (中川 1988: 240) が、分析上の大きな差異はみられない。

田村 (1988)、中川 (1988) の人称に関する分析は妥当なものといえるが、問題点もみられる。特に重要な問題点は、「不定人称」や「4 人称」の個別の用法に関して、統一的な説明がみられないことである。一方、日高東部の静内方言を分析した Refsing (1986: 94-95, 218-219) は、田村 (1988) の「不定人称」にあたる人称を意味論的に “indefinite person” と

¹ 本稿は「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究」アイヌ語班平成 25 年度第 2 回研究会 (2013 年 11 月 2 日、国立国語研究所) における口頭発表を改訂したものである。研究会当日ご意見を頂いた方々及び 2 名の査読者に深く感謝申し上げます。

² 本稿で扱う十勝方言にはこの用法は存在しない (7 節参照)。

して扱い、個々の用法について統一的な説明を試みている。しかしながら、この分析では“indefinite person”に人称代名詞を認める結果となる。これはアイヌ語の言語事実とは必ずしも整合せず、妥当な分析とみなすことはできない（4.1 節参照）。

2.2 言語類型論における包括人称

前節のアイヌ語に関する諸研究が発表された後、言語類型論の観点から包括人称に関する新たな分析が提示されるようになった。Daniel (2005: 4-5) は、世界の 80 以上の言語において包括人称（inclusive person）が形態論的に 1 人称とは独立した形式によって表示されることを主な根拠として、この人称を独立の人称カテゴリーとして扱うべきことを論じている。また、松本（2007: 151-159）は、従来「聞き手を含む 1 人称複数」を表わすとされてきた形式が「聞き手を含む 1 人称複数」以外の多様な用法を持つことに注目し、「聞き手を含む 1 人称複数」を「包括人称」として再解釈することを提案している。松本（2007: 151-152）の記述を以下に引用する。

しかし、1 人称複数の下位類として位置づけられたいわゆる包含形は、このカテゴリーを持つ多くの言語で、「聞き手を含む 1 人称複数」という単純な定義では捉えられないさまざまな側面を呈示している。

例えば、アイヌ語の 1 人称複数除外形（ci-/as）に対する包含形と見なされてきた人称接辞（a-/an）は、とりわけ、この人称形の持つ多様な性格を浮き彫りにしている。すなわち、この人称形は「聞き手を含む 1 人称複数」という用法のほかに、少なくとも次の 3 つの用法を併せ持っている。

（イ）1 人称の間接表現（主に古謡での用法、現代口語では“引用の 1 人称”とも呼ばれる）

（ロ）2 人称の敬称

（ハ）不特定人称（話し手、聞き手を特定しない一種の「汎人称」）

従って、最近のアイヌ語研究者の間では、この人称形を従来のように 1 人称複数の下位類として扱う代わりに、「不定人称」あるいは「第 4 人称」という別個の人称カテゴリーを設定して、そこにこの代名詞を位置付けるという見方が強まっている³。

Daniel (2005) や松本（2007）はいずれも類型論的観点から包括人称を独立の人称カテゴリーとして扱うものであり、アイヌ語の記述的分析に際しても有用な視点を提供するものといえる。

3. 十勝方言における人称のタイプ

以下に十勝方言における人称のタイプをあげる。なお、以下で用いる包括人称は、田村（1956）の「1-2 人称」⁴や松本（2007）などで示されている枠組みと類似するものである。

³ アイヌ語における「不定人称」や「4 人称」の問題点に関しては 2.1 節参照。

⁴ 田村（1956）の「1-2 人称」は本稿における包括人称と必ずしも同じではない。例えば、田村（1956: 49）は「2 人称敬称」を「1-2 人称」とは別のものとして扱っている。本稿では「2 人称敬称」を包括人称の

	代名詞	主格	目的格
1 人称単数	kuáni	ku-	en-
1 人称複数	ciókay / ciútari	ci- / -as	un-
2 人称単数	eáni	e-	e-
2 人称複数	eciokáy / eciutári	eci-	eci-
包括人称	anokáy / anutári	a- / an- / -an	i-
3 人称単数	aníhi		
3 人称複数	okáy		

4. 十勝方言における 1 人称の用法

4.1 日常語における 1 人称の用法

十勝方言における 1 人称を表す形式は、発話者を指示する用法（例文 1, 2）の他、引用句において発話者とは異なる人物を指す用法（例文 3）をもつ。

- (1) **kuáni** anakne naá énkota wano **ku-móynak**.
 1SG.PRON TOP まだ 早く CMP 1SG.SUBJ-目覚める
 「私はまだ朝早くから目が覚めた」
- (2) **kurúma** án wa **ci-ó** tek
 車 ある COMP 1PL.TR.SUBJ-乗る COMP
árki-as.
 来る(PL)-1PL.INTR.SUBJ
 「車があって、私たちはそれに乗って来た」
- (3) “**tánto** siné imi opítta **ku-kár**” ari eci-yáynu
 今日 一つの 着物 すべて 1SG.SUBJ-つくる AP 2PL.SUBJ-考える
 ru he?
 NOMFP
 『今日は一枚の着物を仕上げてしまおう』とあなたたちは考えているのか」

4.2 口頭文芸における 1 人称の用法

十勝方言においては、口頭文芸に現れる叙述者が 1 人称単数の形式で表されるケースがみられる⁵（高橋 2007, 切替 2012）。

- (4) **kúnnano** wano “eták opúni wa ekímun payé-an”
 朝 CMP さあ 起きる COMP 山へ 行く(PL)-INCL.INTR.SUBJ
ari a-yup-í irúska ka án korkay
 AP INCL.TR.SUBJ-兄-POSS 怒る COMP いる COMP

用法の拡張として位置付ける。

⁵ 例文 4 では包括人称と 1 人称単数の交替がみられる。このような交替の理由に関しては現時点では不明とせざるをえない。なお、類似の現象は切替（2012: 256）でも指摘されている。

hókke-an			wa		okáy-an.
横になる- INCL.INTR.SUBJ			COMP		いる(PL)- INCL.INTR.SUBJ
ku-kórupo	orowa	enci-mosóso	wa	enci-puní	wa
1SG.SUBJ-兄	から	1SG.PASS-揺する	COMP	1SG.PASS-起きる	COMP
“eták opúni	wa	kimórus	en	payé-an”	
さあ 起きる	COMP	山	CMP	行く(PL)-INCL.INTR.SUBJ	
ku-kórupo	irúska	ka	án	korkay	
1SG.SUBJ-兄	怒る	COMP	いる	COMP	
ku-sáwre		wa	somó	ku-hópuni	
1SG.SUBJ-怠ける	COMP	NEG		1SG.SUBJ-起きる	

「朝から『さあ起きて山に行くぞ』と兄が怒っているけれど、私は横になっていた。兄に揺すられて起こされて、『さあ起きて山へ行くぞ』と兄が怒っているけれど、私は怠けて起き上がらなかった（用例中の enci-は1 人称単数受動を表す形式）」

5. 十勝方言における包括人称の用法

5.1 日常語における包括人称の用法

包括人称の用法は人称代名詞の有無またはその種類によって異なる。人称代名詞 *anokáy* は日常語において、2 人称単数の敬称として用いられる。この場合、動詞は複数形をとる。

(5) <i>anokáy</i>	<i>enón</i>	<i>payé-an</i>	<i>tek</i>	<i>tap</i>
INCL.PRON	どこへ	行く(PL)-INCL.INTR.SUBJ	COMP	AP
<i>osíppa-an</i>		<i>ru</i>	<i>án</i>	<i>a?</i>
戻る(PL)-INCL.INTR.SUBJ		NOM	ある	FP
「あなた（夫）はどこへ行って戻ってきたのか」				

人称代名詞 *anutári* は日常語において、包括人称（1+2 人称）、2 人称複数の敬称に用いられる。ただし、2 人称複数の敬称に関しては、例文の形では記録できていない。

(6) <i>anutári</i>	<i>anak</i>	<i>áynu</i>	<i>estap</i>	<i>a-né</i>
INCL.PRON	TOP	アイヌ	AP	INCL.TR.SUBJ-である
<i>ru</i>	<i>án</i>	<i>ne.</i>		
NOMである	FP			
「私たちはアイヌなのだよ」				

さらに、包括人称は不定人称を表す用法をもつ。この場合、人称代名詞は出現しない。

(7) <i>pét</i>	<i>kopák</i>	<i>en</i>	<i>apá</i>	<i>somó</i>	<i>a-kár</i>	<i>pe</i>	<i>né.</i>
川	方向	CMP	戸口	NEG	INCL.TR.SUBJ-つくる	NOM	である
「川の方に向かって戸口はつくらないものだ」							

- (8) toón nupuri énkasike en kúnnecupkamuy a-nukár.
 あの 山 (離れた) 上 CMP 月 INCL.TR.SUBJ-見る
 「あの山の上に月が見える」

また、包括人称は非人称受動文の標識としても用いられる。

- (9) naá sák né hi ta kikír orowa e-nán-uhu
 まだ 夏 である NOM CMP 虫 から 2SG.SUBJ-顔-POSS
 a-é a kotom síran.
 INCL.TR.SUBJ-食べる VP CONP 様子がある
 「まだ夏であるときに、あなたは虫に顔を刺されたようだ」

5.2 口頭文芸における包括人称の用法

口頭文芸における叙述者は、1 人称単数だけではなく、包括人称によっても指示される。この場合、叙述者は代名詞 *anokáy* で表される。また、叙述者と他の人物が複数で指示される場合は代名詞 *anutári* が用いられる。また、代名詞の種類とは関係なく、動詞は常に複数形が用いられる⁶。

- (10) taán eper an-aní tek orowano cisé or
 この 子熊 INCL.TR.SUBJ-抱く CONP それから 家 ところ
 en sáp-an. osíppa-an wa
 CMP 下る(PL)-INCL.INTR.SUBJ 戻る(PL)-INCL.INTR.SUBJ CONP
 ikía p, ikía pón eper anak sinót rusuy kus
 その もの その 小さい 子熊 TOP 遊ぶ VP CONP
 i-túra sinót rusuy kus sinót korkay
 INCL.OBJ-共に 遊ぶ VP CONP 遊ぶ CONP
 anokáy anak pón eper hapó-ho
 INCL.PRON TOP 小さい 子熊 母親-POSS
 i-nóspa kun i an-esítoma.
 INCL.OBJ-追う VP NOM INCL.TR.SUBJ-恐れる
 「この子熊を抱きかかえて、それから家の方向へ下った。戻って、そいつ、その小さい子熊は遊びたいので、私と遊びたいので、遊んでいるけれど、私は小さい子熊の母親が追いかけてくることを恐れていた」

- (11) kamúy ené áwki i népkon
 クマ このように 言う NOM ように

⁶ 十勝方言における包括人称は常に複数形の動詞と共起する。その結果、指示対象が単数であるもの（敬意の対象となる話し相手、口頭文芸の叙述者など）に関しても複数形が用いられる。

kirá-an		wa	anutári	pokay	
逃げる-INCL.INTR.SUBJ		CONP	INCL.PRON	AP	
síknú-an	cik	kamúy	a-nómi	easkay	nankor.
生きる-INCL.INTR.SUBJ	CONP	クマ	INCL.TR.SUBJ-祈る	VP	VP

「クマがこのように言ったように、私たちだけでも逃げて生き延びたならば、クマに祈りを捧げることもできるであろう」

なお、口頭文芸の中に現れる引用句においては、日常語の引用句とは異なり、1 人称と包括人称の両方が用いられる。

(12) “taán	pe	pakno	eci-én-kar	kuni	somó	
この	もの	AP	2PL.SUBJ-1SG.OBJ-する	CONP	NEG	
ku-yáynu		akus	iyáraykere.	eásir	sónno	
1SG.SUBJ-思う		CONP	ありがとう	まさしく	本当に	
kamúy	ku-né	tek	ku-rúpneutar-i	or	en	
神	1SG.SUBJ-である	CONP	1SG.SUBJ-大人たち-POSS	ところ	CMP	
ku-ósipi		easkay	nankon	na.	itékke	irúska
1SG.SUBJ-戻る		VP	VP	FP	NEG	怒る
itékkesirámopepeker	no	pírkanopo	kotán	síkkama		
NEG 心配する	CONP	良く	村	守る		
wa	i-kóre	yan	ani.	anokáy	usa	
CONP	INCL.OBJ-与える	FP	FP	INCL.PRON	AP	
a-rúpneutar-i		ot	ta	osíppa-an		
INCL.TR.SUBJ-大人たち-POSS	ところ	CMP	戻る(PL)-	INCL.INTR.SUBJ		
cik	taán	pe	népkon	án	pe	opítta
CONP	この	もの	ように	ある	もの	すべて
a-yé	cik	a-rúpneutari			usa	
INCL.TR.SUBJ-言う	CONP	INCL.TR.SUBJ-大人たち-POSS			AP	
yayírayke	nankon	na”	ari	ikía	kamuy	áwki
感謝する	VP	FP	AP	その	神	言う
						CONP

『これほどまであなたたちが私を大切に扱ってくれるとは思っていませんでしたが、ありがとうございます。まさしく私は神となり、私の両親たちのところへ戻ることができます。怒らずに、心配せずに、しっかりと村を守ってください。私も両親たちのところへ戻り、これまでの出来事をすべて話したら、両親たちも感謝するでしょう』とその熊が言って」

6. 包括人称に関する考察

6.1 包括人称における用法の拡張

包括人称にみられる2 人称敬称の用法、口頭文芸において叙述者を指示する用法などは、

包括人称の用法の拡張とみることが可能である。包括人称の 2 人称や 1 人称への拡張は、通言語的にみられる現象といえる (Cysouw 2005, 松本 2007)。このような包括人称の拡張については、文体的特徴の付加をとまなうケースも知られている (ヨーロッパ諸言語の *Pluralis Majestatis* など)。

2.1 節で述べたように、田村 (1988) の「不定人称」や中川 (1988) の「4 人称」という枠組みでは、個々の用法の統一的な説明はおこなわれていない。これに対し、「包括人称」という枠組みは、個々の用法の統一的な説明を可能にする点で有効なものといえる。

6.2 包括人称と人称代名詞

アイヌ語十勝方言においては、包括人称の用法の違いに応じて、人称代名詞 *anokáy* / *anutári* の使い分けがみられる (5 節参照)。これは包括人称にみられる用法の違いを区別するために生じた現象と考えることができる。アイヌ語の人称代名詞は人称接辞と動詞の組み合わせから発達してきたものと推定されている (田村 1971b: 3-5)。すなわち、アイヌ語における人称代名詞の発達に関して、包括人称の多様な用法を区別するという動機が存在することが推定される⁷。

7. 沙流方言における「引用の 1 人称」について

アイヌ語沙流方言においては、「不定人称」(本稿での包括人称に相当) が引用文中の 1 人称を表す用法が存在する (田村 1972, 1988)。以下は田村 (1972: 19-20) からの引用である⁸。

káni k-árpa kusu né na hani! 《私が行くよ》が引用句となって『私が行くよ』と彼が言った」というばあい、*káni, k-*に代わって、*'asinúma, -'án* が用いられて、

“*'asinúma 'árpa-'án kusu né na hani!*” *sekór hawé'an.*

私が 行 (私が)く から ね と (彼が)言った
となるのである。

十勝方言においては、「引用の 1 人称」は存在しない。その結果、十勝方言においては、1 人称を表す形式が発話者以外の人物を指示する用法、口頭文芸の叙述者を指示する用法など多様な用法をもつ。

石狩方言などの他方言においても、1 人称を表す形式が発話者以外の人物を指示する用法をもつことが知られている (田村 1971a: 841)。しかし、十勝方言の 1 人称には、他方言よりもさらに用法の拡張がみられる (口頭文芸における叙述者を指示する用法など)。このような方言差の要因については、なお詳細な検討が必要といえる。

⁷ なお、1 人称複数の代名詞 *eciokáy* / *eciutári* と 2 人称複数の代名詞 *eciokáy* / *eciutári* の成立に関しては、現段階で実証的な推論を述べることは難しい。しかしながら、包括人称の代名詞 *anokáy* / *anutári* からの類推によってこれらの形式が成立したと考えることは必ずしも不可能ではないと思われる。今後の検討課題としたい。

⁸ 「引用の 1 人称」に関しても、「包括性」からの文法的発達とする分析が提示されている (Bugueva 2008: 41-43)。

8. 包括人称と不定人称

アイヌ口頭文芸の叙述のスタイルは起源的に不定人称に由来するという議論がある（中川 1997: 222）。しかしながら、十勝方言の資料から判断する限り、口頭文芸の叙述者を共時的に不定人称と解釈することは妥当ではない（人称代名詞 *anokáy* が用いられるため）。佐藤（2004: 179）は他方言の資料に基づいて、既に同様の指摘をおこなっている。

一方、アイヌ語の包括人称が起源的に不定人称に由来する可能性も指摘されている（松本 2007, 中川 2011）。この問題に関してはより広範な分析が必要であり、今後の課題としたい。

9. おわりに

本稿ではアイヌ語十勝方言の1人称と包括人称に関し、調査データに基づく分析をおこなった。また、包括人称の用法の拡張という観点から、包括人称の様々な用法を検討した。また、アイヌ語の人称代名詞システムの発達に関して、包括人称の多様な用法を区別するという動機が存在することを推定した。

略号

1: first person, 2: second person, AP: adverbial particle, CMP: case marking particle, CONP: conjunctive particle, FP: final particle, INCL: inclusive, INDEF: indefinite, INTR: intransitive, NEG: negation, NOM: nominalizer, OBJ: objective, PL: plural, POSS: possessive, PRON: pronoun, SG: singular, SUBJ: subjective, TOP: topic marker, TR: transitive, VP: verbal particle

参考文献

- Bugaeva, A. (2008) Reported discourse and logophoricity in Southern Hokkaido dialects of Ainu. *Gengo Kenkyu* 133: 31-75.
- Daniel, M. (2005) Understanding inclusives. In: Filimonova (ed.), 3-48.
- Cysouw, M. (2005) A typology of honorific uses of clusivity. In: Filimonova (ed.), 213-230.
- Filimonova, E. (ed.) (2005) *Clusivity: Typology and case studies of the inclusive-exclusive distinction*. Amsterdam: John Benjamins.
- 切替英雄 (2012) 「アイヌ口承文芸における一人称」『北海学園大学学園論集』153: 249-258.
- 松本克己 (2007) 『世界言語のなかの日本語：日本語系統論の新たな地平』東京：三省堂。
- 中川 裕 (1988) 「アイヌ語千歳方言の人称代名詞とその歴史的的位置」『東京大学言語学論集'88』239-253.
- 中川 裕 (1997) 『アイヌの物語世界』平凡社。
- 中川 裕 (2011) 「アイヌの神謡における叙述者の人称」『北方言語研究』1: 139-156.
- Refsing, K. (1986) *The Ainu language: the morphology and syntax of the Shizunai dialect*. Århus: Aarhus University Press.
- 佐藤知己 (2004) 「アイヌ文学における一人称体の問題」『北海道大学文学研究科紀要』112: 171-185.

- 高橋靖以 (2007) 「アイヌ語十勝方言テキスト：『ヤナギの神』と『ヨタカ』」『環北太平洋の言語』14: 57-64.
- 田村 (福田) すゞ子 (1956) 「アイヌ語の動詞の構造」『言語研究』30: 46-64.
- 田村すゞ子 (1971a) 「アイヌ語石狩方言の人称代名詞と人称接辞」金田一博士米寿記念論集編集委員会編『金田一博士米寿記念論集』三省堂. 848-822.
- 田村すゞ子 (1971b) 「アイヌ語沙流方言の人称代名詞」『言語研究』59: 1-14.
- 田村すゞ子 (1972) 「アイヌ語沙流方言の人称の種類」『言語研究』61: 17-39.
- 田村すゞ子 (1988) 「アイヌ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典』1: 6-94. 東京: 三省堂.

First Person and Inclusive Person in the Tokachi Dialect of Ainu

Yasushige TAKAHASHI

(Center for Ainu & Indigenous Studies, Hokkaido University)

This paper analyzes personal affixes in the Tokachi dialect of Ainu. In the dialect, "inclusive person" has a variety of usage. I suggest that the development of the Ainu personal pronouns, there is an incentive to distinguish a variety of usage of inclusive person.

(たかはし・やすしげ takahashi@let.hokudai.ac.jp)